

研究の動向と課題

本誌では、従来、「研究動向」と称して、主に地域別の研究の進捗状況を随時掲載してきたが、この十七号では一つの試みとしてジャンル別の「研究の動向と課題」を特集した。

ここから、今までの「口承文芸」研究の枠組みを捉え返す新たな視座を得られるならば、幸いである。

真鍋・下仲論文「伝承童謡」では、最近の歌謡研究の中では顧みられることの少なかった「童謡」にスポットを当てている。ここで得られたチャートから、たとえば近代における「△児童▽の発見」（柄谷行人）等の問題と絡めつつ、新たな「童謡」研究が興ることが期待されよう。

重信論文では、「はなし」すなわち「世間話」「都市伝説」「現代伝説」、あるいは「生活譚」等と呼ばれるジャンルが取り扱われる。これらの「はなし」を、われわれの生きられてある「いま」をみつめるための「方法」として捉え返そうというものである。ここではブルンヴァン流の類型比較が厳しく批判されている。

齋藤論文「『伝説』という言葉から」は、「伝説」という言葉の流通を廻る社会史の趣を呈している。従来、「伝説」の語の下に抑圧されてきた、さまざまな「伝説」系を指す言葉の拡がりの中にこそ新たな「伝説」研究の可能性が秘められていた、という逆説が述べられている。

なお、今回のこの企画を更に充実していく責務が、私ども編集委員会にはあろう。「比較研究」「話型（類型・構造）」あるいは「フィールドワーク」「資料集」等の方法の検討など、学界として取り組まなければならない課題には、積極的に関与して、よりよい機関誌となることを目指したい。

（編集委員会・文責 高木史人）